

郷土研通信

発行：てしかが郷土研究会（Teshikaga Regional Studies Association）

〒088-3211

北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10（松橋方） 文章責任：松橋 秀和

URL: <https://www.teshi-ka-ga.org/>

エゾリンドウ

アイヌ語 スツテカラキナ

根に苦み成分があり、煎じて胃腸薬に用いたといわれる。

近況報告

・ふるさと歴史館

支援事業の状況

7月に教育委員会と結んだ「ふるさと歴史館」支援協力で現在進めているのは、「種市佐改資料」スクラップブックのうち、現在「阿寒国立公園」62冊の新聞記事見出しをテキストデータにして、記事の画像を表の中から呼び出せるようにする作業をしています。

・ふるさと歴史館の

今後の支援について

先日、館長ほかと今後の支援作業を進めるにあたって共通認識を持ったため左記のことについて打ち合わせを行いました。

1. 町内にある石碑や記念碑等の調査

10月中で、ふるさと歴史館の職員が同行でき、公用車が使えらる日とする。

その他の日で、時間が取れる会員が調査に動けるの

・公民館ふるさと講座

第一夜（3回連続講演）

「原野の詩人 更科源藏」

講師：松橋秀和

9月25日、弟子屈町公民館で開催され、約30名の方々がおいえにられました。講演の内容はまず初めに、てしかが郷土研究会の活動をお話し、講演当日は更科源藏の命日にあたるので、過去に開催された「原野忌」（文学忌）のことを紹介しました。

引き続き、更科源藏の概略に進み、『北海道の今昔』

であれば、いつでも良い。

・まずは、町内の29箇所の「馬頭観世音菩薩」の調査を行う

2. ふるさと歴史館所蔵の歴史写真の確認と内容の調査

「てしかがの蔵」データと現物の照合作業。写真の解説文等の作業。

これは室内作業なので、11月以降時間を見ながら進めたい。

皇太子殿下を囲んで』（楡書房刊）から「更科源藏・ジンギスカン事件」と題した内容に取りました。

当時定職（肩書）のない更科源藏が北海道の錚錚たる人物たちの中に入って皇太子殿下を囲んで北海道の過去や今を語ることも「事件」なのですが、さらに「おにぎり」とジンギスカンで一緒に昼食をとったことも「事件」であることをお話ししました。

講演拝聴雑記

8月27日、川湯ビジターセンターにて、大八木英夫南山大学教授による講演会「摩周湖の中を覗いてみたら」を開催しました。

毎年夏に実施されている摩周湖の水質調査では何を調べているのか、そして、そこから摩周湖の環境についてどのようなことがわかるのかについて、解説していただきました。

長年にわたって調査を継続することの重要性を改めて感じるとともに、4℃のときに最も密度が高くなる

次回の例会

令和8年10月30日（金）

18:30

弟子屈町公民館

公民館主催の「ふるさと講座」を例会と勉強会にします。

講座は、「てしかが街なか歴史さんぽ」で、講師は松橋です。以前当会の勉強会で題材にしたものを写真等を刷新した内容にしました。

水の性質によって湖水が循環し、湖底まで酸素が運ばれることなど、調査内容を理解する上で重要となる、湖の中で起こっている水の動きについても知ることができました。

（安藤）



むかしむかし写真館

No. 368

種市佐改 旅と観光のコレクション

『新聞スクラップ』からーその2

小林 俊夫

郷土研究会がパネル展

昭和五十一年の事業として、五月と十一月の二回にわたって縄文期から現代までの歴史年表などを解説した「パネル展」を開催しました。

事務局長の岩谷 吏氏（弟子屈中教諭）の職員住宅の茶の間には、大きなコンパネや小さなパネルが持ち込まれ、足の踏み場もないくらいです。

展示内容の全体計画案は数回の会議を経てまとめ上げ、本町の歴史年表作成班、古い写真収集班、コンパネとパネルを塗装したり、色画用紙を貼ったりする作業班にそれぞれ分担して準備を進めました。岩谷氏の奥様や子ども達も手伝ってくれたのです。

展示資料が集められると、展示会場に合わせて、年表

や古写真の選別作業を行い、出来るだけ、来場する方々が見やすい展示を心がけながら整理作業を進めました。

整理された展示資料をもとにコンパネやパネルに解説の文字を書く段階に入ると、岩谷氏は下書きもせず、解説文に沿って、和筆と洋筆を使い分け、文字の字体や色を変えながら直接書くのです。

実は、岩谷氏の実家は釧路の映画館用看板（文字と絵）も手がける看板屋で、「子どもの頃から父の仕事を見ているうちに、いつのまにか身についた。」と言いながら、短時間で書き上げてしまい、見事な出来栄に驚きました。

作業中、時には奥さんが夕食を用意してくださって、ごったがいしになった茶の間で、家族とともに頂いたこともあります。今でも忘

れられないひと時をすごさせていただきました。

年表などのさまざまな解説パネルは四日ほどで出来上がり、展示物はトラックで新築間もない福祉センターに運び込み、各展示物のセッティングが行われました。開場すると多くの町民の皆さんが足を運んで頂き、郷土研活動に自信を持たせてくれた事業の一つとなったのです。

町史に貴重な写真

郷土研究会がパネル展

【弟子屈】

五月の弟子屈の先住民族の生活を解説するパネル展を開いた弟子屈郷土研究会が、三日から七日まで今度は産業を中心とした市街発達史のパネル展を町福祉センターで開いている。

同研究会は三月に郷土の歴史や文化を研究し育てていくと青年たちが結成した。釧根地区では三番目の郷土研だが、会の初めての活動として五月には縄文文化期から江戸時代のアイヌ期にかけての庶民の生活史をパネル、年表を使ってわかりやすく解説して展示した。

今回は町民文化祭の行事の一つとして取り組んだもので、時代的には前回から引き継いだ形で安政年間から始め「弟子屈の歴史」としてまとめている。

内容は松浦武四郎の「久摺目誌」を引用、知人による弟子屈の記録からスタート、弟子屈の発展の原動力となった明治六年（一八八三年）に石川県の本山七右衛門が温泉旅館を開業したあたりから戦後に至るまでを、古い写真を交えながら解説した。

昭和十三年の屈斜路地震や、町内に初めて入ったフォード型自動車など貴重な写真も多いだけに、古くから住んでいる町民には懐かしさがいっぱい。センターの温泉に入りに来たお年寄りも、湯上がりのひととき、熱心に見入っていた。

写真解説：貴重な写真も交えて開かれている歴史のパネル展

（北海道新聞 昭和51年11月6日朝刊道東版P.15 原文のまま掲載）

（※）ふるさと歴史館・種市佐改 旅と観光のコレクションー新聞スクラップ「阿寒国立公園」No.10・51ページ史料No.114



北海道新聞 1976(昭和51)年11月6日
朝刊 道東 P.15
(北海道新聞社許諾 D2608-2702-00031731)
資料提供：弟子町教育委員会社会教育課
ふるさと歴史館

種市佐改氏は、釧路鉄道管理局で刊行関係に携わり、退職後釧路観光連盟の事務局長を勉められて勇退後、摩周観光文化センター観光資料室長として赴任されています。その後弟子屈町立図書館初代館長を勤められています。

氏は阿寒国立公園(当時)や道東の歴史や自然環境等を調べるため古い新聞記事を収集し、その情報に手がかりを求め、そこから細部を探る手法で阿寒(摩周)国立公園のバイブルといわれる『阿寒国立公園の三恩人』などを上梓されています。

その基礎資料となった「新聞スクラップ」が2500冊ほどあります。